知多半島周辺におけるウミガメ類産卵状況及び死亡漂着情報

2016 年の知多半島周辺におけるアカウミガメの産卵は 2 例でした(図－1)。ここ数年、発見数の少ない年が続いています。

[図－1] 産卵地点

ウミガメの産卵があった場合、海岸には行き帰りの足跡と産卵跡が残ります。産卵調査のときは母ガメの気持ちになって足跡を辿っていくのですが、海岸によって地形は様々で、奥行きが植生の場合もあれば(写真－1)、コンクリート護岸など障害物の場合もあります(写真－2)。産卵場所を探しているときに障害物にぶつかると方向転換したり海へ帰ってしまうこともありますが、今回は問題なく産卵することが出来たようです。

[写真－1] 上陸・産卵跡（内海つぶてヶ浦）

[写真－2] 上陸・産卵跡（若松海岸）

ここ 2 年、全国的にウミガメの産卵巣の発見数が減少していましたが、今年は若干ではありますが増加したようです。北太平洋という大きな海域の中でアカウミガメが産卵するのは日本の海岸だけですので、今後も産卵数が多く安定してほしいと切に思います。

また、残念ながら死亡漂着は 4 例あり、いずれもアカウミガメでした（図－2）（写真－3～6）。体の大部分が欠損しているものありましたが、1 個体は成体、残りの 3 個体はあと数年で繁殖が可能になりそうな亜成体と思われるものでした。諸説ありますが、ウミガメが誕生してから成体になるまでに生残する確率は 1/5,000 程といわれています。しかし、成体になってしまえばその後数十年にわたって繁殖に参加することができます。多くの困難を乗り越えて成長してきたウミガメが死亡してしまうことは、次世代の個体を多く消失したとも言い換えることができるため、非常に残念です。

[図－2] 死亡漂着発見場所

[写真－3] 若松海岸

[写真－4] 内海お吉が浜

[写真－5] 内海千鳥が浜

[写真－6] 若松海岸

また今年は、5 年ぶりに混獲の情報提供がありました(写真－7)。混獲とは漁業の網にウミガメがかかることを指します。今回は伊勢湾内で底引き網を操業中にアカウミガメ亜成体を捕獲したとのことでしたが、溺れることなく元気な様子でひと安心でした。この個体は四肢に標識を装着した状態で海へ再放流しています。身近な海で暮らしているわりに私たちとほとんど出会うことがないウミガメですが、漁師や釣り人など海で過ごす時間の多い方々は意外と頻繁にウミガメを目にしているのかもしれません。今後も多方面に情報提供を呼びかけ、知多半島周辺に来遊するウミガメの貴重なデータをより多く収集していきたいと考えています。

[写真－7] 榎戸沖にて混獲されたアカウミガメ

知多半島周辺の全海岸を毎日、スタッフでチェックすることは難しく、産卵や死体漂着の発見は、散歩中の方やサーファーの方など、一般の方々による情報がほとんどです。
今後も、記録を残していくために皆さんからいただく情報がとても重要です。産卵はもとより、足跡を見つけたり、死体が打ちあがっていた場合でも是非、南知多ビーチランドまでご連絡ください。ただし、申し訳ありませんがお寄せいただく情報は、知多半島周辺に限らせていただきます。(伊藤幸太郎)